Soft Tissue Malignant Melanoma 20

Soft Tissue Malignant Melanoma?

三毛 紀夫*1 吉川 邦彦*1 相馬 照代*2
 久志本 東*2 中室 誠*3 角村 純一*3
 宮田 正彦*3 中尾 量保*3

Summary

症例は29歳女性。昭和59年2月右鎖骨部皮膚に常色の米粒大結節に気づく。昭和60年2月大阪警察病院皮膚科形成外科を受診し摘出を受け、組織診により、1) malignant melanoma, 2) clear cell sarcoma が疑われたため、3月当科に紹介され、精査の結果同部位原発の悪性腫瘍と考え、4月拡大根治術を行った。腫瘍は腱および胸鎖関節とは隣接せず鎖骨下静脈下に存在した。組織学的に malignant melanoma と診断し、DAV療法BCG療法を施行した。

緒 言

Malignant melanoma は神経堤由来の悪性腫瘍で皮膚をはじめ、メラノサイトの存在する部位に発生する。今回、われわれはメラノサイトの存在しない軟部原発と考えられる症例を経験したので若干の考察を加え報告する。

症 例：29歳，女性，主婦

家族歴：特記すべきことなし

既往歴：10歳時，右鎖骨骨折

現病歴：昭和59年2月右鎖骨部皮膚に常色の米粒大丘疹に気づく。昭和60年2月大阪警察病

院皮膚科形成外科受診，右鎖骨部皮膚に小児手拳大で下床と癒着する皮下腫瘤(図1)の摘出を受け組織診により，(1) malignant melanoma, (2) clear cell sarcoma が疑われたため，昭和60年3月当科に紹介される。

初診時所見：心肺異常なく，肝脾腫認めず。右側頸部リンパ節が大豆大の大きさで触れる。

図1. 警察病院初診時

*1 Norio MIKE, Kunihiko YOSHIKAWA:

大阪大学皮膚科学教室

*2 Teruyo SOHMA, Higashi KUSHIMOTO:

大阪警察病院皮膚科形成外科

*3 Makoto NAKAMURO, Junichi SUMIMURA,

Masahiko MIYATA, Kazuyasu NAKAO: 大阪大学第一外科学教室

図 2. 警察病院における生検の組織像

図 3. 再手術にて摘出された腫瘍

皮膚所見：右鎖骨部に 8.5 cm の術創を認めるが、その他体表に異常を認めず。

入院時検査所見：表 1 に示すごとくで、摘出前の LDH は 916 と上昇。当院転院時には右鎖骨下動静脈造影にて腫瘍濃染と静脈の閉塞を認めた。

病理組織学的所見：図 2 は第 1 回摘出時の組織像で、腫瘍は核の異型性を示す胞体の大きな細胞で構成されており、一部にメラニン色素を認めた。

以上より、第 1 回摘出前には LDH が高値であるが摘出後正常値を示した点と術創以外に体表に異常を認めず、他科的検索および右鎖骨下動静脈造影以外の種々の放射線検査所見にも異常を認めない点、これら 2 点より右鎖骨部皮

表 1. 検査所見

警察病院における所見

血算 正常

生化学 LDH 916 ↑↑ (218~448)

その他 正常

頭部 CT 頸部 CT 胸部 CT } 異常
腹部エコー Ga シンチ 骨シンチ } なし

耳鼻科・眼科的に異常なし

当院転院時における所見

血算 正常

生化学 LDH 122 (119~249)

その他 正常

5S-DOPA 141 μ g/day (40~150)

肝シンチ 腹部 CT 異常なし

婦人科的に異常なし

右鎖骨下動静脈造影にて腫瘍濃染と静脈の閉塞を認める

下原発の悪性腫瘍と判断し、昭和60年 4 月当院第一外科にて拡大根治術を施行した。

摘出された腫瘍(図 3) は大きさ $5 \times 2 \times 2.5$ cm で断面は灰白色ないし黒色調を帯び、臍および胸鎖関節とは隣接せず鎖骨下静脈下に存在した。

この腫瘍の組織像(図 4) では、腫瘍細胞は核小体の明瞭な大型の細胞で構成され、大部分の細胞では胞体は淡明であるが、一部にメラニン色素を有する胞巣を認めた。

腫瘍の灰白色部位の電顕像(図 5) では、腫瘍細胞内に一部に格子状構造を示すメラノソームを認めた。

術後の治療に DAV 療法と BCG 療法を施行し、現在、再発・転移なく経過している。

考 察

Clear cell sarcoma は神経堤由来の腫瘍でその臨床的および病理学的特徴は表 2 に示すごとくである。この症例が clear cell sarcoma と異なる点は、(1) 臍および臍膜に接しない点、(2) HE 染色にてメラニンを認める点の 2 点である。Enzinger ら¹⁾ は clear cell sarcoma を別名として malignant melanoma of soft parts と称するように半数の症例は、malignant mela-

図 4. 摘出された腫瘍の組織像

図 5. 電顕像

noma の亜型と考えており、本症例はそれに一致すると思われる。また、仮称である soft tissue malignant melanoma の診断名は、すでに soft tissue variant of malignant melanoma などの呼称が報告^{2)~4)}されており、神経堤由来の細胞がない軟部組織原発で組織学的に確認される malignant melanoma の呼称として今後検討に値するのではないかと結語する。

文 献

- 1) Enzinger, F.M., et al: Clear Cell Sarcoma (Malignant Melanoma of Soft Parts), Soft

表 2. Clear Cell Sarcoma の特徴

<clinical findings>

age	young adult (20 to 40 y)
sex	female > male
region	lower extremity (75.1%)
	upper extremity (22%)
	trunk (2.1%)
	head & neck (0.8%)
	bounding to tendon or aponeuroses

<pathological findings>

- (1) lobulated or multilobular mass
- (2) compact nest of rounded or fusiform cells
- (3) pale-staining clear cytoplasm
- (4) H-E stain: intracellular melanin, rare fontana preparation; 50% melanin positive

Tissue Tumor, Mosby, St. Louis, 795-801, 1983.

- 2) Bearman, R.M., et al: Clear Cell Sarcoma with Melanin Pigment, Cancer, 36: 977-984, 1975.
- 3) Raynor, A.C., et al: Clear-Cell Sarcoma with Melanin Pigment: A Possible Soft-Tissue Variant of Malignant Melanoma, The Journal of Bone and Joint Surgery, 61-A: 276-280, 1979.
- 4) Ekfors, T.O., et al: Clear Cell Sarcoma of Tendons and Aponeuroses: Malignant Melanoma of Soft Tissue? Report of four cases: Path. Res. Pract., 165: 422-428, 1978.